

2021年6月25日

学校法人三幸学園  
神戸元町医療秘書専門学校  
校長 西島 多枝子 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 松本 悠

### 学校関係者評価委員会報告

令和2年度 学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 久保田 知志 委員 (医療法人沖繩徳洲会 徳洲会病院 医事課係長)
- ② 馬越 美帆 委員 (医療法人沖繩徳洲会 徳洲会病院 医療事務科 第4期卒業生)
- ③ 松本 悠 委員 (飛鳥未来きずな高等学校 神戸キャンパス 教頭)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2021年6月7日 (会場 学校法人三幸学園 神戸元町医療秘書専門学校 604 教室)

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 令和2年度 学校法人 三幸学園 神戸元町医療秘書専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者:副校長 片淵 卓也

学校関係者評価報告責任者:学校関係者評価委員会委員長 松本 悠

学校関係者評価委員:久保田 知志

学校関係者評価委員:馬越 美帆

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

学校スローガン:遊学働の一体と主体性「チャンス・チェンジ・チャレンジ」

学校目標:精皆勤率—30%以上 実績 無し(コロナ禍に伴い測定不可)

退学率—4.0%以内 実績 6.0%

生徒募集—150名 実績 147名

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

#### ① 課題

各学科の目標・人材育成の方向付けは出来ているが、担任スタッフや生徒への明示ができていない。  
社会のニーズに合わせたタイムリーな将来構想が不十分である。

#### ② 今後の改善方策

各学年の教育目標を設定し、3月より担任へ職員会議にて、生徒にホームルーム等にて浸透を図っており、今後も定期的の方針を周知していく。

タイムリーな将来構想に向け、定期役職者会議にて継続的に検討と教職員への浸透を進め、社会ニーズを踏まえた学校運営を行っていく。

#### ③ 特記事項

なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

（久保田委員）情報浸透について、神戸徳洲会病院では本部で集約したものが各病院へ発信されており、書面や一斉メール等で周知をおこなっている。また、フィードバックをおこない浸透度合いを確認しているが職員全体の周知徹底はやはり難しい。

（久保田委員）スローガンの浸透について、理念の唱和を毎日朝礼にて行うことで浸透に繋がっている。姉妹校の好事例を情報シェアし課題解消に繋がられないか。また、生徒に対する浸透方法として、掲示などの見える化を試みるのはどうか。

（馬越委員）在学中、掲示の記憶は残っており、教室内外目につくのでよく見ていた。掲示は有効だと考える。

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

業務効率化の促進はしているが、十分ではない。

### ② 今後の改善方策

業務効率のマニュアル浸透を図るとともに、複雑な情報システム化が多くなれるまでに時間を要するケースがあるため、誰にでもわかりやすく取り組みやすい効率化を検討・促進していく。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

(久保田委員)院内の業務効率化の取り組みについては、Excelの活用 CSVに書き出し、関数やマクロを組んでいくことで莫大なデータを処理し時間短縮している。ただ、高度なExcel能力を皆が持っているわけではないため、課題と認識している。

(久保田委員)残業は19時以降認めないなどの規定を設け、限られた時間で処理が出来るように指導をおこなっている。問題意識や時間の制限を設けることで必要な業務を優先的に処理する様に促している。

(馬越委員)社内の残業規定のおかげで、だらだらせずに決まった時間内に終わらせる意識が高まり、無駄な時間が減り効率化が図れている。まだ時間があるからと後回しにすることが少なくなり、メリハリをつけて仕事ができていると感じている。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

関連分野との連携は図れているが、十分とは言えない。教員の指導力育成の取り組みが少ない。

#### ② 今後の改善方策

関連分野との連携について、産学連携が決まりきった取り組みでしかできていないため、機会を創出していく。指導力育成について、現在設けている年次別到達目標を更に活用し、若手職員の取り組む水準を全体的に高める。

#### ③ 特記事項

年度末に授業の集大成として、SANKO 医療アワード（全学年対象）を開催。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

(久保田委員)産学連携は現在行っておらず、地域連携として婦人会や町内の野球大会等に行くことはある。

(久保田委員)今後の産学連携で生徒が手伝えることは、病院のイベントを盛り上げる関り(例として、病院祭の吹奏楽・体操教室等)はできるのではないかと。

(久保田委員)コロナ禍が落ち着けば、医療公演を以前の様に毎月実施出来るので会場設営等の手伝いは  
お願いできる。学校側から内容を提示いただき依頼があればそれを検討することは可能。

(馬越委員)高齢者と関わる機会が生徒時代にあれば良かったと感じる。病院を利用される方はやはり高齢  
者が多いため、在学中に地域の高齢者と関わることなどが出来れば、就職後を具体的にイメ  
ージできたりコミュニケーション能力向上という点でも良いと思う。

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

##### ① 課題

退学者の低減。

卒業生との継続的關係構築。

##### ② 今後の改善方策

退学率低減に向け、定例職員会議にて月 1 回の共有、また共有内容を教科担当の教員にも共有し、学校全体で情報共有と対策を講じていく。

卒業生との関わりについて、就職している園との連携を更に強化し、卒業生の状況の把握を行っていく。

##### ③ 特記事項

なし

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

(馬越委員)当時同じクラスで退学を考える友人はいなかったが、医療機関に就職するか悩んでいる友人にはクラスで「せっかく医療事務の勉強したのだから一度は医療業界に就こう」等と声をかけあっていた。

(馬越委員)卒業後の関わりについて、卒業後も同じ業種に就いているクラスメイトとは連絡を取り合っており、仕事上の悩みや仕事の仕方についての話をしているため、卒業後も学校に来て話す機会があると嬉しい。特にゴールデンウィーク後に気持ちが落ち込みやすいため、ゴールデンウィーク後に話す機会や話す場所を開放してくれるのは大変嬉しいと思う。

(松本委員長)退学の傾向については、高校の退学要因は減ってきている。退学の原因は、精神的不安や人間関係が主な理由であるが、専門学校の割合より少ない。

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

### ① 課題

進路・就職の支援体制: 担任スタッフの業界理解の不足に伴い、支援に必要な情報が十分ではない。  
卒業生支援が属人化しており、体制として不十分である。

### ② 今後の改善方策

業界理解を深めるため、企業訪問を活用し専門基礎知識を向上させていく。  
卒業生支援について、学校全体の取り組みを強化するとともに、卒業生情報の蓄積を行っていく。

### ③ 特記事項

就職指導については、クラス担任と就職エリア担当の複数教員サポートを実施し、内定獲得まで導く体制づくりをしている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

(久保田委員) 病院訪問について、新人の同行訪問は歓迎。ぜひ業界理解の機会にして欲しい。訪問の時期は、ゴールデンウィーク明けぐらいが体制としても落ち着いているため推奨できる。

(久保田委員) 各病院の担当者について、出来れば担当が変わらず固定して頂けるとより安心して連携が取りやすいと思う。

(馬越委員) 在学中の就職サポートは十分だった。求人が届けば当日中に掲示やファイリングがされ、情報をスムーズに収集できた。先生に相談もしやすく、それぞれの求人が自分の就職先として合う合わないの見極めもできた。



## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	2

### ① 課題

防災訓練が簡易的な実施のみにとどまっている。

### ② 今後の改善方策

コロナ禍の状況を見ながら、できるだけ 1 回以上の訓練を実施する。また、訓練実施が難しい場合は、防災意識の喚起を学校全体で定期的に行っていく。

### ③ 特記事項

緊急地震速報が発報された際の行動案内ポスターを各階に掲示。

ハザード対応ポケットガイドブックを独自に作成し、入学時に配布並びに説明を行っている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

(久保田委員)防災訓練について、年2回必須で行っており、放水訓練も実施している。患者の誘導と職員の動きがマニュアル化されている。

(久保田委員)コロナの感染対策について、気のゆるみが大敵であるため院内でも消毒・黙食等の基本の徹底を行っている。ワクチンを接種してもクラスターが発生している事例が出ている現状を考えると、現時点では感染防止の緩和はすべきではないと考える。

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

定員充足率 100%にする

### ② 今後の改善方策

関西・広島広報室との連携を図り、募集活動に更に力を入れる。

### ③ 特記事項

兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

(久保田委員)事務員の採用において、志望動機・きっかけの多くが“受付の人に優しくされて”と言う人が多い。

専門学生は医療事務になりたい希望から入学しているため、志望度は大学生よりも高く感じており、当院の採用に繋がっている。自信を持って医療事務員の育成を続けて欲しい。

(馬越委員)事務員を目指すきっかけについて、幼いころから病院で働く事務員に憧れを持っていた。事務員のことを調べる中で医療事務の仕事を知り、専門学校へ入学をした。

(松本委員長)高校生の進路活動状況について、動きは一昨年前(コロナ禍前)と変わらない。特にオンラインオープンキャンパスが普及・浸透したことで参加させやすい。オープンキャンパスの会場に行くことへの抵抗がある生徒にとっては、オンラインオープンキャンパスは非常に助かる。

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

個人情報の保護対策はしているが十分ではない。

### ② 今後の改善方策

学校内の職員会議等にて、個人情報の取り扱い・法律等に関わる勉強会を定期的に行い、理解度の向上を図る。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

（久保田委員）個人情報の取り扱いについて、情報保護の工夫していることとして入職時の研修を必須にしている。職員によっては意識が低いこともあるが、そのような行動や状況が見られれば都度指導している。

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

### ① 課題

教育訓練給付制度の受託認定校にはなっているが、実績が1名にとどまっている。  
学校開放型のボランティア活動がほとんどできていない。

### ② 今後の改善方策

教育訓練生募集の積極的な広報活動を行っていく。  
コロナ禍の状況を見ながら、学校開放等のイベントを立案し積極的に案内できる取り組みを行っていく。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

（久保田委員）教員の業界理解として、当院の医療公演（毎月テーマが異なる）への参加、学校で医療事務を担当している先生や卒業生からの情報周知などを行うと良いのではないかと。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

専門学校卒業に関する現場の評価や採用に対する評価基準はそれぞれであるが、専門学校卒業生に対しての期待は大きい。知識の部分で、特に専門学校卒業生は即戦力となっている。さらに、今後専門学校では知識と合わせコミュニケーションスキルも兼ね備えたバランスのいい生徒の育成が必要である。

また、卒業生が増えていく上で、卒業生をフォローしていく機会や情報を共有できる環境、更には教職員同士が就職先の卒業生情報を共有し合い、異動・退職が生じても継続して卒業生を支援できる取り組みを大切にしたい。また、学校と病院が連携をとることによって長く勤務を続けられる卒業生を増やしていきたい。

今後は、地域の方との関係性をより深いものにしていく環境作りや、病院様との連携を図れる機会を増やしていけることを期待している。